

授業作り	重点	・ICT機器の利活用を通して、個々の生徒の学習状況に合わせた個別最適化の学びを展開する。
環境作り		・授業および教室環境のユニバーサルデザイン化を推進し、生徒が学び合い、「わかる・できる」ようになることを目指す授業作りを進める。

■ 各教科の取組について

教科	学習状況の分析 (各種調査から)	学校が取り組む目標 (日常の授業の様子などから)	目標達成のための取組
国語	<p>・新宿区学力定着度調査の結果では、全体的に全国、新宿区の平均正答率を上回っている。主体的に学習に取り組む態度の問いでも肯定的な回答が多い。</p> <p>・「漢字の書き」問題は正答率が低い。</p>	<p>・言葉を選んだり工夫して使ったりして、きめ細やかな心の様子や情景を伝えよう、理解しようとする前向きな姿勢が見られる。その良さがさらに伸びるように、2～4人でグループワークをしたり、個別での学習活動を進めたりして、教材や生徒の発達段階に合った授業を展開できるようにする。</p> <p>・漢字の書き問題は、週に1回程度の定期的なテストを実施し、生徒が粘り強く取り組めるよう、指導を進める。</p>	<p>①様々な授業形態で授業を実施する。</p> <p>②読書活動の推進</p> <p>③定期的なテストの実施</p> <p>④デジタルドリル等の活用</p>
数学	<p>・新宿区学力定着度調査の結果から、第3学年について、「数と式」「関数」の領域では全国、新宿区の平均正答率を上回っている。また、「図形」分野では全国、新宿区の平均正答率を上回っている。しかし、「データの活用」の分野では、全国、新宿区の平均正答率を下回っている。</p> <p>第2学年について、「数と式」「関数」の領域では、全国、新宿区の平均正答率を上回っている。しかし、「方程式」「方程式の利用」の単元では全国、新宿区の平均正答率を下回っている。</p>	<p>・学習内容の定着及び計算の手順や法則についての理解を図るため、基礎的・基本的な学習を反復する時間を毎回の授業において設定する。</p> <p>・応用問題に対する苦手意識の解消及び生徒が粘り強く問題に取り組むために、体系的な繋がりを意識した指導を行う。</p>	<p>①体系的な繋がりを踏まえた授業展開</p> <p>②デジタルドリル等の活用</p> <p>③単元別テスト等の定期的な実施</p> <p>④習熟度別少人数クラスを活用した生徒の実態に応じた分かりやすい指導</p>
理科	<p>・新宿区学力定着度調査の結果において、新宿区の平均正答率を下回った。特に学習内容の定着に課題があ</p>	<p>・既習事項について反復練習をする時間を授業内に確保するとともに、各学年の系統性を意識した授業を展開することにより、長期的に既習事項を知識とし</p>	<p>①系統性を踏まえた授業展開</p> <p>②デジタルドリル等の活用</p> <p>③結果を基に自ら考察する授業展開</p>

	<p>り、学習してから時間がたつと忘れる傾向がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仮説をもって実験・観察に主体的・意欲的に取り組む生徒が多く、レポートにもよく取り組んでいることが、回答結果に表れている。 	<p>て定着できるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実験・観察を行う前に既習事項や生活体験を基に、根拠に基づいて仮説を個人で立てさせ、実験・観察を通して得た結果から分かることについて話し合い活動を取り入れながら考察させることで、自ら考察できる力をさらに養う。 	
社会	<ul style="list-style-type: none"> ・新宿区学力定着度調査の結果から、思考・判断・表現の観点の平均正答率が全国、新宿区を下回った。また、世界地理の分野で学習内容の定着に課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業ではいったん理解しても、時間が経つと忘れてしまう生徒が多い。基礎的・基本的な内容の定着を図る必要がある。 ・考えたり表現したりする活動には積極的な生徒が多い反面、文字で書くことに抵抗感のある生徒が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ①小テストを実施したり、デジタルドリルの AI 機能を活用したりし、基礎的・基本的な内容の反復学習を行う。 ②学習のまとめや調べ学習等、書いて表現する学習活動
英語	<ul style="list-style-type: none"> ・新宿区学力定着度調査の結果から、思考・判断・表現の力を問われる英作文等の書く力に課題がある。次いで、読む力が課題である。学年によっては、基礎的な問題の誤答もあるので、反復練習を行っていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・聞いたり話したりする活動に意欲的に取り組む生徒が多い。授業内で教え合ったり話し合ったりする機会を多く設け、コミュニケーションの素地を養う。 ・聞いたり話したり読んだりした内容を自分のことばで書き、添削する等、多技能を統合した活動を積極的に取り入れる。 ・基本的な語彙や文法事項の反復練習を取り入れ、基礎学力の向上を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 少人数授業で友達とコミュニケーションをとる授業 ② 聞いたり話したり読んだりした内容を自分のことばで書く活動 ③ スピーチ・ペアワーク・パフォーマンステスト等自己表現を伸ばす活動 ④ デジタルドリルの活用